

『9.11 ジェネレーション』第四章を読んで

～アメリカの戦争観～

LH18-4051K 稲垣 信

LH18-4058B 川口 萌恵

LH18-4066F 宍戸 輝子

目次

1. 概要
2. 主張
3. 参考文献

1. 概要

「アメリカの戦争観」

① 日米の戦争観

日本では戦争は悲惨なものであり二度と繰り返してはならないと考えられている。そのため終戦記念日には、日本国民中全ての人たちが二度と戦争を起こさないことを誓い反戦を掲げ、平和を祈る。一方、アメリカでは戦争によって独立を勝ち取り、領土を統一し、合衆国の分裂を食い止めたという歴史的背景を抱えている。そのため、武力行使は目的達成のための一手段であると考えられているため、メモリアル・デー(戦没将兵記念日)はアメリカ国民にとってパーティーでしかない。

このようにアメリカの戦争観は日本と大いに異なることが分かる。

②「平和」を実現すること

メディアを通して見る戦争は客観的なものでしかなく、そこには痛みという感覚がない。そのため、戦争を一方からの視点でみた偏りのある報道や間違った情報によって、イラクとアメリカ国民の間に更に深く溝が生まれることとなってしまった。よってメディアによる誠実で両面の視点からの報道を通じ戦争の真実を知り、目隠しされたこの戦争を見つめなおすことによって初めて「平和」が実現されるのではないだろうか。

.主張

①ラジオ局にてイラクを馬鹿にしている DJ。(p.144)

アメリカ→「自由の国」「言論の自由」だから許されるのか。

「愛国心」からこのノリになるのか。

日本→こんなにも批判しないと思う。相手国に対して怒りなどは同じだと思うが、気持ちの示し方がもっとストレートだと思う。

②独立主義者から世界の警察へと変貌したアメリカ。(p.150)

警察は法律に縛られて、好き勝手に行動できない。国際的保安官（シェリフ）は、司法権と警察権を併せ持っている。

→すべてアメリカの思いとおりになり、極端だが地球が“アメリカ”になってしまいそう。そして、現在アメリカは本当に“世界の警察”になっているのか？

③アメリカの教科書(p.157)(p.162)

アメリカ→太平洋戦争において、アメリカ側の責任を非常に厳しく追及している。

一方で、軍隊をサポートし愛国心を鼓舞する内容もある。この部分は戦争していたころの日本に似ている。

日本→どこか教科書は客観的で「どっちが悪い」などはっきり位置づけていないと思う。しかし、戦争を二度と起こさないようにという平和的なメッセージがある。

④メモリアル・デー(p.159)

メモリアル・デー(5月の最終日曜日)とは、戦死者を悼んで始まったもの。日本でいう、終戦記念日と近い意味がある。ここでもアメリカと日本の意識の差がある。

アメリカ（メモリアル・デー）→町全体がパレードで、ビール片手に楽しんでいる。そこには、笑顔がある。

日本（戦争記念日）→戦争の悲しさ、重さを感じる日。戦死者に向けて黙祷をする。そこには笑顔はない。

- 確かに、記念日に対する認識が根本的に違うのかもしれないが、メモリアル・デーはそんなにも happy な記念日なのか？ 日本とアメリカの考え方のどこに分かれ道があるのか？

3.参考文献

岡崎玲子・『9.11 ジェネレーション』・集英社新書・2004年